

題目：占領下におけるサムス准将の医療福祉政策の研究
Health and Welfare Policy during the U.S. Occupation of Japan, 1945-1952

保健医療学専攻・医療福祉経営学分野

学籍番号：11S3062 氏名：酒井 正覺

研究指導教員：武藤 正樹 副研究指導教員：池田 俊也，高橋 泰

はじめに

本研究は、連合国最高指令官総司令部（GHQ）が占領下日本で実施した医療福祉改革を考察し、現在日本が直面している医療制度改革の本質に新たな光を当てることを目的とする。GHQ は日本を再建させるために、医療福祉・公衆衛生の充実を目指した。今日の医療福祉制度の根幹をなしているのは、米国の対日占領政策の成果といっても過言ではない。しかし、今までの経営持続性に関する研究では、戦後日本の医療福祉に多大な影響を与えたクロフォード・F・サムス准将（Crawford F. Sams 1902-1994）の功績が十分に顧みられていない。サムスの改革を通して現在の立場を認識し、戦後日本の医療福祉の「原点」を解明する。

方法

文献論的方法を用い、GHQ のサムス准将に焦点を当てる。本研究で用いる第 1 次史料は、スタンフォード大学フーヴァー研究所に保管され、改革を実行したサムスが寄贈した「サムス文書」に依る。個人文書や歴史資料だけでなく、学術文献をはじめ当時の新聞や雑誌を収集し、それらの史料を反映させ時代状況を浮き彫りにさせる。歴史的事実や証言については、複数の史料を照合させて客観性を保つように心掛ける。

倫理上の配慮

サムスの医療福祉改革を研究するにあたって、倫理面には十分配慮し、学問の真理を探究した。具体的には、歴史史料やデータを扱う際には十分に吟味し、社会に対して誤った情報を与えることや過度の一般化及び断定を避け、誤解や混乱が起きないようにした。客観性・公平性を重んじ、研究の全過程を通じて、差別のない態度で臨み、人権に対して配慮し、事実を追求することを心がけた。

結果

本研究では、サムス准将が深く関わった医療福祉政策を詳細に調査し、サムスの理念は現代の医療にまで通ずる内容であることを解明した。医療・福祉施設経営では、「組織改

革」「報酬」「人材開発」を考えていくことが重要であり、サムスの改革を医療・福祉経営の観点から見ると次のようになる。(1)サムスにとって「組織改革」とは、憲法 25 条の制定により、「制度(規定)」に着目したことである。(2)サムスにとって「報酬」とは、学校給食の提供や DDT 撒布によって日本人の健康維持に努めたことであり、「政策(政策の枠組み)」に焦点を当てたことである。(3)サムスにとって「人材開発」とは、医学教育改革に熱心をもって取り組んだことであり、「人材(財源・運営)」に力点を置いたことである。医療・福祉事業を持続的に経営させるには、サムスが実施したように、この 3 点をバランスよく組み立て計画することが大切である。サムスの長期的視点と政策は、現代の「医療・福祉事業の根幹」を先取りしたものであると評価することができる。

考察

日本を訪れたサムス准将は、「患者が入院するときに家族が鍋や釜を病院に持ち込んで、煮炊きをしていた」現状を見て、まるで「中世の病院のようだ」と驚いていた¹⁾。サムスが実行した改革は、(1)疾病予防(2)治療(3)社会福祉(4)社会保障の四分野をバランスよく統合させたものである。(1)サムスは予防医学の見地から、児童の体力を回復させるために学校給食制度の導入に踏み切った。学校給食によって児童が健康に成長すれば、疾病を予防することができ、最終的には医療費削減に繋がる。(2)サムスは DDT の散布を実施し、徹底的な公衆衛生対策及び包括的な予防接種体制の確立し、多くの日本人を救った。「DDT 革命」は個人への予防医療行為だけではなく、全ての日本国民に対する「社会防衛機能」かつ「公共政策」である。(3)サムスは「生存権」を規定した日本国憲法第 25 条の制定にも関わり、「無差別平等の原則」「公的責任の原則」「必要充分の原則」を日本の公的扶助・福祉行政に導入し、福祉三法(生活保護法・児童福祉法・身体障害者福祉法)の成立に寄与した。(4)サムスは医学教育に関して、インターン制度を導入して、学閥解体、医学生の交流と競争、現役医師の技術の向上を期待した。さらに、看護婦の質を強化し専門性を高めるために、医師と看護婦の上下関係を是正し、対等な関係を構築することに全力を注いだ。また、サムスは、医師が薬を売る商売人ではなく、専門家としての医学的知識と技術料によって収入を得ることを望んでいた。しかし、日本医師会の反発に合って、「医薬分業」は失敗に終わった。

結語

敗戦国日本の現状を深い洞察力で視察したサムスは、長期的な観点に立脚して医療福祉改革を実行した。本研究は、既存の研究では深く言及されていない、改革を実行したサムスの視点から医療福祉の原点を解明しただけでなく、占領期から戦後へと医療福祉政策の連続性があることを明らかにした。

引用文献 ¹⁾ 武藤正樹. よくわかる病院の仕事のしくみ. 東京: ぱる出版, 2007: 28